# 歴史の道をゆく
## the history of road
### 来満街道 ②

**尾去沢銅の搬出ルート**

前回は、起点・松の木地区から毛馬内を経て大湯に入るまでを辿ったが、尾去沢鉱山の銅は、松の木も毛馬内も通らずに大湯に入っていたという。

和銅元年(708)に金が発見され奈良の大仏などにも使われたとの伝説も残る尾去沢鉱山。南部藩の記録では慶長年間(1596～1615)に金山が見つかり、延宝2年(1674)から銅山として栄えるようになる。

採れた銅は粗銅(荒銅)の形で大阪の銅座に送り、精銅に仕上げて長崎まで運び、中国などに輸出された。幕府御用銅の中でも南部銅は有名で、その主力鉱山の一つが尾去沢だった。

尾去沢銅を大阪に運ぶルートは、

① 初期には鹿角街道(湯瀬経由)で盛岡に送り、北上川舟運を経て石巻から。

② その後は来満越え(大柴峠越え)で野辺地湊から。

③ 南部領と秋田領の境界論争が解決して以降は、花輪を通らず十文字道を経て十二所(大館市)まで駄送し、米代川舟運を経て能代湊から。

ただし、日本海が荒れる冬期は①ルートから東廻り航路で大阪へ運ばれることもあった。

このうち来満越えの尾去沢銅は、花輪から鹿角街道を北上した後、松の木地区手前の冠田地区で右折。毛馬内経由の遠回りコースではなく、猿賀神社や大湯ストーンサークル付近を通る近道コースで大湯に入っていたらしい。

大湯から先は毛馬内経由の来満街道に合流。ある試算によると、銅だけで年平均3300駄余りもの分量が、大柴峠を越える時代があったという。

**大湯から来満峠を越える**

さて大湯の町並みに入った来満街道は、右手高台に中世以前の館・鹿倉城跡がある辺りで国道から右に分かれ、旧道を行く。道筋右手の神明社境内奥にあるイタコ石は、かつては腰廻の渡し場にあって、舟渡しや旅人の守り神だったともいわれる。

道は川原の湯の西側を経て下の湯、中町、上町と抜ける。大湯温泉は天正18年(1590)に鹿角郡が正式に南部領となって以来、領内を視察する代々の藩主が必ずといっていいほど立ち寄る湯治場だったという。

大湯の町並みを離れた街道は、現在の大湯リハビリ温泉病院前を通り、大湯川の支流・安久谷川沿いの林道を東進。本来の道筋は現道の右手を通り、やがて現道と重なったり左右に交差していた。

安久谷川を最初に渡った地点が「一ノ渡」、次が「二ノ渡」(中ノ渡)である。いずれも徒渡りだったというが、中の渡と上折戸地区手前の「三ノ渡」には土橋があったとの記録もある。時代による違いだろうか。「中ノ渡」に近い、現道右手の杉林に旧街道の道筋が残り、来満越えで唯一現存する史跡「中ノ渡一里塚」がある。塚は片方だけで塚木も無い。

**大柴越えのルート**

上折戸で道は二手に分かれ、右は来満峠と不老倉峠への道。左が本街道の大柴峠越えの道である。上折戸には、北畠昌教の居館だったという昌斎館跡や、墓所といわれる円丘がある。

大柴峠越えは円丘の脇を通り、つづら折りの急坂を進んだ。今回は、歩き易い裏側のブルドーザー道を一部利用して道筋に合流。「壁坂」や「座頭戻し」を経て、現在の道筋は鉢巻山中腹を文字通り、鉢巻きを巻く形で進む。本来の道はこの鉢巻山の頂上部を通っていた。頂上には大明神碑と石の祠の屋根だけが今でも残されている。

途中左手の「馬落し」は目も眩む絶壁。病気などで働けなくなった鉱山の馬牛を谷底に落としたと聞いた。小柴峠の付近から大柴峠への道沿いには、ナラやブナの見事な巨木が目立つ。

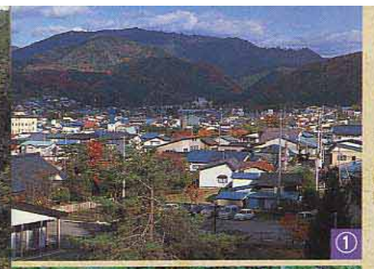
ほどなく、殿様や幕府巡見使が休憩したという駕籠立て場跡。狭いが平らに整備された跡が残り、秋田・青森・岩手3県の境に位置する四角岳や、彼方の岩手山が望める。その先50mほどで大柴峠(731m)である。

下り道は上りより傾斜が緩やかで、小石の目につく石名坂、センノ木平、両側が谷になっている横渡りを経て下って行く。やがて、幾つもの小径に分かれては出合う大登りの坂を下り、朝繋(浅繋)で林道に出る。ここまで、今は背丈ほどの笹や藪、倒木があって、相当難儀な道だ。

街道ルートは更に林道を横切って沢に下り、前の人の尻に顔がつくほどの急坂だったという尻喰坂の難所を登って山中宿に至っていた。しかし林道を横断した先は、藪が密生していて、道筋は確認できない。

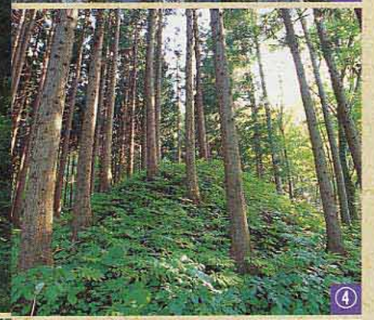
南北朝時代から戦国時代まで、軍用道路だったともいわれる大柴峠越えの道。江戸期には正規の街道として整備されたとはいえ、重い荷を背負って登り下りした牛馬や人夫たちにとっての過酷さは、どれほどだったことだろうか。

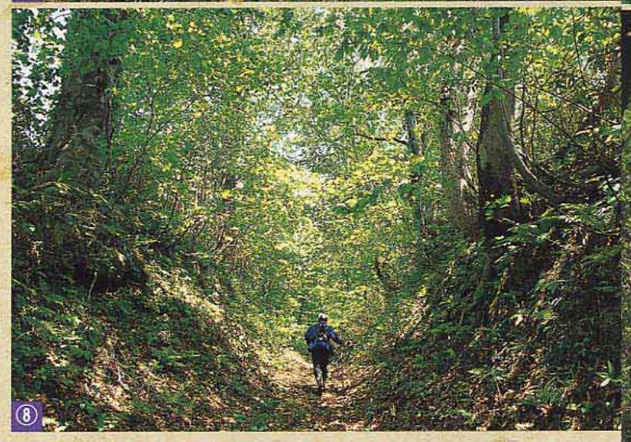
③


①

②

⑤


④


⑧

⑥

⑦

# 来満街道

①大湯の町並み
大湯は来満街道に沿った古い温泉街で、大湯館は南部氏一門北氏の御預り館だった。幕府巡見使一行の宿泊地にもなっていた。

②イタコ石
現在は神明社境内に置かれているが、以前は大湯川・腰廻渡し(イタコ渡し)にあり、この石に旅人が川渡りや旅の安全を祈った。

③一ノ渡
安久谷川が大湯川に合流する少し上流にある最初の渡りで、この先に二ノ渡(中ノ渡)、三ノ渡と三カ所の川渡りがあった。

④中ノ渡り　一里塚跡
上折戸の分岐より少し手前の右側、杉林に囲まれて残っている。街道中、唯一残る一里塚跡である。

⑤北畠昌教の墓
大柴峠への登り口となる上折戸にある。北畠昌教は織田信長に滅ぼされた伊勢の国司で墓は大きな円墳となっている。

⑥ブナ、ナラの続く旧道
およそ2mほどの幅で続く美しい山道。来満街道を下敷きにして林業用の作業道が作られたもののようだ。

⑦大明神碑
明治42年5月建立の碑で、横と裏面に北秋田郡蟹沢村や沼田村、宮袋村、小袴村などの字名や人名が彫られ、正面には南無妙法蓮華経・講中などの文字が見られる。写真は案内をしてくれた大湯中岱在住の中村利雄さん。

⑧大柴峠
このルートには大明神、小柴峠、大柴峠、尻喰い坂と4カ所のピークがある。大柴峠を越えるとしばらく下り坂が続いていた。